

## 岩手県 千厩商工会青年部 流しそうめん で 園児と交流

八月二十二日、商工会青年部（及川淳部長）は千厩町内の幼稚園や保育園



児と交流を深める「僕らの故郷伝え隊事業」の一環として、奥玉保育園、千厩保育園で流しそうめんを行った。

今回で四回目の取り組みで、部員一〇人が園を訪問し、そうめんの流し台は竹を割ってつくった。当日は雨だったが、園児たちははだしになって大はしゃぎ。

「子どもたちに喜んでもらえてよかった」と西村大輔副部長は話していた。

## 佐賀県 多久市商工会

### 定住推進、官民で転入者優遇

商工会（飯盛康登会長）は、四月に市が施行した「多久市定住促進条例」と合わせ、官民が協力して人口減に歯止めをかけようと、市外からの転入者を対象に「多久市定住促進応援団」事業を始めた。

市の人口は現在約二万二七〇〇人で、毎年数百人ずつ減少している。一〇年後には二万人を割り込むという予想もある。市は転入世帯に六〇万円を支給し、家族構成によっては増額するなど、定住人口の拡大に知恵を絞っている。

商工会の優遇制度の対象は市の転入奨励金受給者で、民間が行う転入支援は県内初の試み。市内の司法書士を利用して家屋を登記すると、一般的

な手続き費用から二五％程度を割り引き、市内のスーパーや飲食店など一〇店舗が協賛している「多久市定住

促進応援団」の店ではクーポン券を利用した商品の割り引きや飲食サービスが受けられる。市の転入奨励金給付目標は年間二〇世帯が目標で、交付手続きの際に商工会の支援策も紹介し、割引クーポンなども手渡すこととしている。これまでに五世帯が給付認定を受けた。

七月九日に行われた同事業の開始式では、飯盛会長が「人口減を黙って見ていられない。商店主が力を合わせて転入者に一役買いましょ。転入者の方が安心して新生活を始められるようお手伝いしたい」と挨拶し、市まちづくり部の陣内紀朗企画経営係長は「市のイメージアップが図られ、一組でも多く転入者が来てくれれば」と期待している。

に磨きをかける。

## 熊本県 大津町商工会青年部 大津地蔵まつりを 子どもたちに

江戸時代から続く「大津地蔵まつり」の歴史を子どもたちに受け継いでもらおうと、商工会青年部（西川秀貢部長）が企画し、八月十八日、子どもたちが祭りのシンボル「六地藏」を載せた山車の清掃と提灯の飾り付けを行った。

当日の山車曳きを受け持つ室小学校の児童ら約三〇人が参加し、山車の清掃後、提灯に一人ずつ願いを書き込み、ぐるりと囲むように山車の屋根に

吊り下げた。地蔵まつりは商工会



が実行委員を務め、八月二十三日〜二十四日、役場南側のお祭り広場（オークス広場）で開催された。歩行者天国となった会場は、ステージ発表や夜市、ヤマメのつかみどり、町の伝統工芸「梅の造花」展などで賑わい、六地藏山車曳き、総踊りが華やかにフィナーレを飾った。

## 栃木県 黒磯商工会

### 「男塾セミナー」で魅力をアップ

商工会（渡辺克久会長）主催の魅力アップセミナー「男塾Ⅱ・魅力づくり支援塾」が開講した。「自分を変えたい、高めたい」と考える若者をサポートしようと昨年開設したものの。

昨年は主に独身男性を対象とされていたが、既婚男性や女性からも参加希望があったため、今年是对象枠を拡大したところ、教師・飲食業・観光業などさまざまな職種の一〜四〇歳の男女二二人が集まった。七月から十二月まで計七回開き、精神面、マナー、服装、「コミュニケーション能力など

ある人とサービス」について全国で講演している香取感動マネジメント代表・香取貴信氏が講演。香取氏は「人に感動を与えるにはまず自分を磨くこと。謙虚な目線で、尊敬できる人を多く持ち、自分を高めてください」とアドバイスしていた。

渡辺会長は「不正が多い世の中だが、気概ある大人を輩出していきたい」と語り、参加した保育園事務長・秋間要一さんは「講座に参加し、自分の幅を広げ、仕事や私生活に生かしたい」と話していた。

石川県 白山商工会

## 白山山麓の観光情報を携帯で手軽に検索

商工会は二次元QRコード（QRコード）と携帯電話

話を利用した観光案内を十月から本格運用するのに先立ち、八月十七日から試験運用を開始した。加盟施設が利用客にコード付きのシールを配り、客はそれを携帯電話で読み取り、観光名所や周辺施設の情報を



サイトで調べることができる仕組み。

国土交通省が昨年度から観光客への情報提供高度化を目的に公募している「まちめぐりナビプロジェクト」に、県内で今年度唯一選ばれたもので、白山山麓観光の際の「寄り

道」をやすくし、回遊性を高めるねらいだ。

利用客は最新の詳しい情報を手軽に調べることができ、加盟施設側は例えば温泉利用の多い人には新たな温泉情報を重視した情報提供を行うなど、コード読み取り履歴から顧客特性に合わせた紹介ができる。

観光案内と同時に「白山の恵みスタンプラリー」も実施され、ポイントがたまるとクーポン券や宿泊券の抽選に応募できる。利用客がQRコードを読み取ったポイントがつく。QRコード付きシールを応募用紙に貼って郵送すると、入浴券の抽選にも参加できる。

白山山麓地域の飲食店、宿泊施設、観光施設三〇軒が加盟してサービスの運用が開始されたが、十月までに六〇軒の加盟が増やす予定。利用には、パンフレットや商工会HPからの登録が必要。

奈良県 都祁商工会

## 夏休みの工作教室はプロがお手伝い

八月十六日、商工会建築部会（大西延昌会長）は都祁交流センターで子どもたちのための工作教室を開いた。

建築の仕事を地域の子どもたちに伝えようというねらいで、今年で三回め。部会の四〇人の大工や職人が参加した。

午前中は地区内の小・中学校や保育園の屋根の補修などの奉仕活動を行い、午後からは

工作教室に参加した三七人の小学生の工作进行指導。慣れない手つきでのこぎりを使うなど子どもたちは熱心に工作に取り組み、本立てや糊、CDラックなどを作った。

吐山小学校六年の上垣二三君は「大工さんは釘を打つのがうまくてびっくりした。糊を作ったので、夏休みの宿題に提出します」と目を輝かせていた。

と目を輝かせていた。

福島県 浪江町商工会女性部

## 元祖『親父の小言』現代版作成へ

昭和三年、浪江町の大聖寺で記さ

れ、今も全国で親しまれている人生訓『親父の小言』現代版を作成しよう

と、商工会女性部は浪江青年会議所・浪江ロータリークラブと協力し、コンテストを実施して『思い出に残る親父の小言やエピソード』を募ることとした。

『親父の小言』は、大聖寺の故・青田曉仙和尚（当時）が父親からの教えを記したもので、昭和三十年代に地元商店が商品化したことで有名になった。「朝きげんをよくしろ」「人

には腹を立てるな」「人には馬鹿にされていよ」といった四五の「小言」

は、今も湯呑みに描かれたり額にされ、全国のそば屋や居酒屋で人気を博している。

近年は家族をめぐる悲しい事件が後を絶たないことから、女性部は家族のあり方などを見直すきっかけになればと考え、コンテストと併せて

八月二十五日には「親父の小言講演会」も開催した。大聖寺住職の青田曉知さんが講師を務め、父親の記した小言の意味などを解説した。

鹿児島県 日置市商工会青年部

## 砂のフェスティバルを開催

八月十二日、一ムも特別参加した。

商工会青年部 約三〇組の参加者は汗だくになりながら、など実行委員 二時間の制限時間で趣向を凝らした砂の像

主催の「国際サンドアート 雄介さんら「CRAFTSMAN」チーム。フェスティバル 今年の千支のイノシシをかたどった像は迫力

2006」が 満点。十月に香港で行われる国際サンドアート大会に参加する。



海浜公園・吹上浜で開催された。今年は交流を続けている香港の手